

全国自動車教育研究会会長あいさつ



会長 加藤 秀次
(東京都立蔵前工業高等学校長)

会員校並びに賛助会員の皆様におかれましては、日ごろから全国自動車教育研究会（略称：全自研）の諸事業にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

平成25年10月の全国自動車教育研究会総会・研究協議会から会長職を務めさせていただいています。東京都立蔵前工業高等学校長 加藤 秀次 と申します。昭和54年4月に新規採用教員として東京都立墨田工業高等学校月島分校（定時制）自動車科に赴任して以来、転勤を重ね、立場が変わりながらも現在まで自動車教育に携わらせて頂いています。旧都立世田谷工業高等学校時代には、全自研東日本事務局長も務めさせていただき、全国自動車教育研究会とは切っても切れない大切な関係になっていると自負しています。

さて、平成20年にリーマンショックによる世界的金融危機が起こり、日本の企業や自動車業界の多くが影響を受け、自動車販売が落ち込み、高校への求人数が減少した時期がありました。最近では企業の業績が回復傾向にあり、技術・技能を持った工業高校卒業生を是非採用したいという企業が確実に増えています。全国の工業高校にとって、これまで苦勞して生徒を育て、少ない求人の中で少しでも有利な企業に就職させてきた努力が報われ始めています。就職戦線では、しばらくは売り手市場になると思われます。

しかしながら、高校の自動車教育に目を向けますと、この10年間で毎年自動車科や自動車コースを設置していた学校が、学校改革や学科改変等で自動車教育をやめてしまう学校が出ています。その影響で全自研会員校数も年々減少傾向にあるのが事実です。まことに残念で寂しく思っています。

このような状況にあっても、自動車にかかわる技術は日進月歩で開発が進んでいます。我々自動車教育に携わる教員として、自動車の基礎知識や基本的な技術の教育は勿論のこと、ハイブリット車や電気自動車、コンピュータ制御機構、安全走行システム等の最新技術にも対応できる教育を進めていかねばなりません。そのためには、自動車を教育する教員の指導力育成、技術・技能の向上等の役割の一端を本研究会が担っていく必要があると考えております。会員校は減っていますが、自動車教育研究会は自動車教育の牙城として、その存在意義と役割をしっかりと担っていくことが求められます。全自研として、これからやらなくてはならない事業がたくさんあります。会員校の皆様と連携を深めながら自動車教育をさらに充実してまいりたいと思いますので、今後ご協力をお願いいたします。